

極東國際海事裁判所

(一頁)

D006257

亞米利加合衆及其他對其本負及其他

一九三一年乃至一九四二年、昭和二年乃至昭和十六年、日本海軍

ノ戰備ニ関シテ海軍備中ノ防衛ニ並報告

亞米利加合衆及退後海軍ノ對付ニハス、オーストラリア、インド、シヤードン、ニヨリ準備
サドル陳述並ニ報告

一、一九四二年、昭和十七年、五月三十日、聯合全總司ニ官、要
請ニ應ジ、一九四二年、昭和十七年、七月、二日、海軍大臣ニ、
裁判所ニ出頭ニ此處ニ係年中、問題ニ関スル海軍省保管
書類ニ関シテ報告ヲ提示スル旨、私ニ指示セリ。

二、私ノ職務遂行上並ニ亞米利加合衆及海軍関係事項、
事實、調査記録及ニ報告ニ於ル正規、海軍、手續ニ依
リ、士官ガ製作保管セル正式、海軍報告、記録及ニ文
書ヲ参照セリ。

本所並ニ、一九四二年、昭和十七年、十二月七日及其以後、(意)

所船ニ遂行シタル海軍作戰ニ至ルニテ、日本海軍、計
画及準備、問題ニ関スル上記、記録、本裁判所ニ對
シテ私ノ調査、報告ナリ、一、問題ニ下記、四項目ニ分テ
提出ス。

701

極東國際軍事裁判所

(一頁)

Doc 6257

亞米利加合衆國其他對其未負其其他

一九三一年乃至一九四二年、昭和二年乃至昭和十六年、日本海軍

ノ戰備ニ関シテ海軍備中ノ防衛ニ並報告

亞米利加合衆國退後海軍不新セー・ス・オー・リ・タ・ド・ン・ニヨリ準備
サドル陳述並ニ報告

一、一九四二年、昭和十七年、五月三十日、聯合公總司ニ付、要
請ニ應ジ一九四二年、昭和十七年、七月二十日海軍大臣ニ、
裁判所ニ出頭ニ此處ニ係年中、問題ニ関スル海軍省保管
書類ニ関シテ報告ヲ提示スル旨ニ私ニ指示セリ。

二、私ノ職務遂行上並ニ亞米利加合衆國海軍関係事項、
事實、調査記録及ニ報告ニ於ル正規、海軍、手續ニ依
リ士官ガ製作保管セル正式、海軍報告、記録及ニ文
書ヲ参照セリ。

本防衛ハ一九四一年、昭和十六年、十二月七日及其以後ニ意

用船ニ遂行シタル海軍作戰ニ至ルニテ、日本海軍、計
画及準備、問題ニ関スル上記、記録、本裁判所ニ對
スル私ノ調査、報告ナリ。一、問題ニ下記、四項目ニ分テ
提出ス。

701

Doc 6257

- (一) 海軍、建造特等航空母艦、建造之圖及計畫及準備
- (二) 委任統治諸島、於此海軍基地、建設重要要塞、構築之圖及計畫及準備
- (三) 海軍攻擊、援助トシテ、領事館、問諜、^{行動}之圖及計畫及準備
- (四) 食糧、^行之日本、戰爭、於此敵對行為、開始トシテ、明確ニテ理由、附シテ、警告、依リ、日本、米國、通商、與ヘシ、トシ、一九四三年、昭和十九年、二月、七日、布達、其、海軍、於此食糧、海軍、及艦船、日本、航空母艦、機動部隊、加ヘテ、奇襲、攻擊、之圖及計畫、及準備

第一項

海軍艦艇、建造特等航空母艦、建造之圖及計畫及準備

- 三、航空母艦、擴張及侵略、爲、海軍武器、最良トシ、^(三頁)
 一九四三年、昭和十九年、日本海軍、首腦者、
 日本、海軍、大將、及、永野修身、海軍、大將、依リ、認
 め、^三。二、事、彼等、語、下記、記錄、依リ、示ス。
- 四、航空母艦、本質的、彼等、所謂、攻撃的、則、侵略的、海
 軍武器トシ、公、日本、主張、一九三五年、昭和十年、

102

D006257

倫敦海軍會議關係、參談、際、日本海軍大將並、永野
海軍大將、述べたる所ナリ。爾後七年ニシテ真珠灣、航
空母艦攻撃、於ル日本聯合艦隊司令長官トナリ、日本
一九四四年昭和十九年十一月二十九日、米日代表、會議、於
ニ日本、極力、於テ侵略計画有スル、如キ疑念ヲ受、
ベキ非ズト主張セリ。コノ主張ヲ裏付け、日本、日本満足
スル條件、下ニ日本、海軍條約航空母艦ヲ欣然ト廃止スル(四)
ト言明セリ。『若シ彼等(日本側)ニシテ東亞侵略意圖ナ
トスルニハ航空母艦、保持得有利ナシ、ハナダナ』ト彼、
言明セリ。(此際檢察部文書第ニ五〇号)

又倫敦會議、於ル日本首席代表ニシテ其直後日本海軍
大臣トナリ其後真珠灣、航空母艦攻撃、際、日本
海軍ト令教惣長ナリ、永野海軍大將、一九三九年昭和十四
年十一月倫敦會議、正式會議、於テ、再ニ航空母
艦、攻撃的、海軍武器、主要ナル型ナリト、日本、主張
ナリ。永野、更ニ侵略及ニ脅威、ナリ状態、出来
ル又完全ニ到来セ、爲ニ我々ハ、航空母艦、廃止ト……
海軍艦船、他、級、之ヲ減少セト唱導スル』

703

Doc 6257

ト述ベタリ(實際檢察部文書ヲシニ五二号)

六、永野ト山本トノ職務上ノ海軍航空並ニ個人的協力ハ
倫敦海軍會議ニ関スル後等ノ共同ノ努力ニ依ルミテ又
永野ト山本トハ一九三六年ヨリ一九三七年ノ昭和十一年ヨリ十三年
ノ間相當期間ニ亘リ夫々海軍大臣及ニ海軍次官トシテ
相共ニ勤務シ其後一九四一年ヨリ一九四三年ノ昭和十六年ヨリ
昭和十八年ノニ夫々軍令部長及ニ聯合艦隊司令長官ト
シテ真珠灣攻撃ノ計画ノ立案並ニ命令ニ當リテ指導的地
位ニ在リシ事實ニ依リ明カナリ。

七、

猶記録長ハ永野ト山本及其同僚ハ航空母艦ノ建造
及ニ使用ヲ日本海軍政策ノ主要原則トナリ。

本政策ノ實施ハ三段階ヨリ成レリ。第一、現存ノ航空母艦
ノ建造ニ関スル量的及ニ質的制限ニ関スル條約ノ廢止並
ニ海軍建設ノ秘密ノ爲メ條約上ノ障礙ノ撤廃ヲニシ
本が合衆國ニ付シ航空母艦ノ優勢ヲ得ル迄航空母艦及
ニ其ノ掩護艦艇ヲ建造スル事ヲニシ真珠灣ニ碇泊
又ハ繫留セル合衆國太平洋艦隊ノ人員及ニ艦艇ヲ同戰
前ニ秘密ニ奇襲攻撃スル爲メ航空母艦機動部隊ヲ

104

Doc 6257

使用之事。

八、第二段階即ち航空母艦建造に關する現行條約、制限
、廢止、倫敦海軍會議に關する會議ニ日本海軍代表ト
ニ出席セル山本及ニ永野、海軍統率、下ニ遂行セラ
タリ。一九三三年、~~大正十三年~~、華府條約、比率ニ依リ
日本ヲ制限シ、航空母艦總噸數ハ一萬噸トナセリ。
日本代表、海軍、建造に關する現行條約、制限、撤廢ヲ
要求セリ。日本側、現行比率即ち比例制限、代リニ彼等
、所謂「共通最高限度」ニ基テ條約制限ヲ要求セリ。
他、諸國、本提案、採用、何處カ、有テハ制限、保持ヨリハ
寧ロ如何ナル制限ヲモ廢棄スル結果ニ至ルヲラント思ヘリ。
他、諸國、此皆日本側、要求ニ同意セザリ。日本側、一九三四年
昭和九年、十二月二十九日ニ一九三六年、昭和十一年、二月三日
ニ有効ナル條約上、規定ニ準據シ、該條約ヲ廢棄スル意思
ヲ通告セリ。一九三六年、昭和十一年、二月十六日、永野海軍大將
統率、下ニ日本側、會議、腹退、他、諸國ト一諸ニ
海軍建設ヲ制限スル新條約、作製ヲ拒ミタリ。

105

Doc. 6257

九、一九三三年ノワシントン條約及一九三〇年ノロンドン條約規定ニ
基き日本、合衆国及英國ノ海軍建造ニ関スル之ヲ報告ヲ交換シ
居リ、日本ガ右條約ヲ終結セシメタルモノノ條約規定ニ依り東洋
ナル事ヲキニ至リシ時日本ハ一九三六年ニ廣田外務大臣及「
大使團」ヲ交換サシタル文書ヲ合々諸通牒ニ添テ海軍建造ニ関
シ相互ニ情報ヲ交換スベトス米英及佛提言ヲ拒絶セリ
然レニ日本ハ後述スル領事密偵ソ、他ノ方法ニ依リ合衆国ニ於ケル
海軍ノ建造ニ関スル擴大ニ情報ヲ獲得シ續ケタリ、

一〇、日本海軍政策ノ第二段階トシテ一九三六年ヨリ一九四一年ニ至ル間日本
海軍及政府ハ航空母艦建造ノ擴張計畫ヲ履行セリ、一九三六年ニ
日本ハ航空母艦四隻ニ六、四〇〇噸ヲ有シ居リ、然レニ一九四一年十月
首即チソノ価僅カ五等ニシテ日本ハ航空母艦ノ數カヲ三倍以上ニ
増加シ空母十隻ニ六、七〇〇噸ヲ保有シ居リ

十一、日本ハ航空母艦建造ノ擴張ニ加フルニ一九三一年ヨリ一九四一年ニ至ル
間重巡洋艦ヲ一九三一年ノ八隻ヨリ一九四一年ノ十隻ニ駆逐艦ヲ五十二
隻ヨリ百三隻ニ而シテ潜水艦ヲ四四隻ヨリ七十四隻ニ夫々増加セリ、
同一期間ニ米ハ南洋ニ於テ海軍ノ表出ノ増大ニ直ニ通シ重巡洋艦
ノ總數ヲ十隻カニ日本ト同數ノ十隻又ニシタルガ他方駆逐艦ハ
三百三十五隻ヨリ百三十五隻ニ縮小シ又潜水艦ハ八隻ヨリ百三十五隻ニ増
加セリ航空母艦ヲ匹敵セバ一九三四年及一九三六年日本提督及永野
海軍大將ガ夫々ガ引用セシ如ク合衆國ニ於テ聲明セル時日本
及合衆國海軍ハ各々四隻ノ航空母艦ヲ有シ居リ
一九四一年十月七日ニ日本ハ十隻ノ航空母艦ヲ有シタルモ米ハ僅カニ
六隻ヲ有セシム、而シテ中太平洋沿岸ニアリタル八隻ハ三隻ナリキ

No. 6

Doc 6257

十二航空母艦、建造及使用に關スル日本海軍政策を遂行、わ三三三三
最終、段階ハ真珠湾攻撃を以テ終戦部隊トシテ、空母部隊
部隊ノ日本ニヨリ使用ナリキ、日本軍が真珠湾ニ対シテ派遣セシ
一隻、航空母艦ハ加賀、赤城、蒼龍、飛龍、翔鶴、及瑞鶴ニシテ
日本海軍中最強ノ空母ナリキ、之ヲハ日本海軍ノ空母兵力ナルト
シテ之ヲ割テ方々トメ三百六十艘ヲ攻撃セシメタルが右ハ然ラズ日本
海軍全艦載機兵力ヲ割テ方々ニ相対スルニシテ、當時ハ、水域
ナリニ一隻ノ空母即チ米軍艦にキミント「エンタープライズ」が真珠湾
ニ旋泊シモトシテ合衆國海軍が集合シ得タル艦載機ノ最大數ハ
六百八十艘ニ足ガカルベシ據言セバ一九三三年ヨリ一九四三年ニ至ル日本
海軍ノ空母建造ハ日本ヲシテ被攻撃海軍部隊ニ比シテ圧倒的ニ
優勢ナル艦載機兵力ヲ伴フ米軍艦ヲナキ最強ノ一様部隊ヲ
諸敵ノ真珠湾、合衆國海軍母艦ニ艦船ノ攻撃ニ派遣シテ大傷
タルナリ、更ニ右攻撃ニ於テ日本海軍ノ主ナル目標及目的ハ真珠湾
ヲ基地トスル米軍海軍ノ一隻、航空母艦ヲ撃沈シテ太平洋ニ於テ
日本空母、既得ノ優勢ヲ増強セトスニ在リナリ、

707

十三之ヲ要スル一九三三年ヨリ一九四三年ニ至ル日本海軍建造に關スル日本ノ計
画及準備ハ日本海軍ノ最高權威者タル永野、山本ニヨリ航空
母艦ノ侵略的役割ヲ行フ事ヲ建造ナルべき海軍艦艇ノ第一トシテ、
明示的認識及日本空母及他ノ海軍兵器建造に關スル現存條約ノ制
限ヲ廢棄シテ事實ニヨリ特色ヲ有スル。日本ノ海軍計画及準備ハ更ニ
日本が一九四三年迄ニ合衆國及他ノ列國ニ對シ航空母艦ニ於テ決定的優勢ヲ
占ムルニ至ル迄空母建造ノ重點ヲ置キナリ、而シテ最後ニ膨脹ト侵略
ヲ目指シ海軍政策ノ頂點トシテ日本一九四三年十二月七日空母機動部隊ヲ以
テ戦争ノ事實ヲ開始セシメ太平洋ニ於テ合衆國海軍勢力ヲ壊滅セシメ、
計画ノ下ニ交ヒナリ且、秘密ナル攻撃ヲ行ヒナリ。

Doc 6257

NO. 8

(十二頁)

第二項

委任統治諸島ニ於ケル海軍基地設定及
要塞構築ニ關スル計畫並ニ準備

四茲ニ提出セラル書證ニ委任統治諸島ニ對スル日本海軍ノ政策ガ日本海軍ノ
航空母艦ニ對スル政策ニ關スルト同様ノ目的ヨリ即チ、寧ろ委任統治諸
島ノ海軍ノ擴張及侵略ヲ開發シ且利用スルトヨリ特色附ケラレタラン
コトヲ示スモノナリ

五之ト同様ニ右ノ政策實行スル航空母艦ニ關スル政策ノ實行ニ附テ執ラレル
ト同ノ活動線沿ヒ為サリ即チ條約上ノ諸制限ニ終止符ヲ打ツリ之
本件場合直接條約侵犯ナリ(當該諸島ニ要塞及海軍基地ヲ築造
スル)右諸島ニ要塞及基地ヲ一九四一年/昭和十六年/十一月七日及以前以降
合衆國及同盟國ニ對スル海軍戰鬪行為ノ開始並ニ遂行ヲ爲ス使用ナリ

六條約及委任統治ノ制限ハワシントン條約(一九二二年)ニ右條約ニ基キ日
本ニ與ラレル統治ノ委任(合衆國ト日本ト間ノ委任統治條約(一九三三年)
ニ依リ確立セラルモノナリ)コト等ノ制限ハ次ノ如ク述ベラレリ

當該委任統治諸島ノ領域ニ陸海軍基地ヲ設定シ若クハ要塞ヲ
構築スベカラズト

(次頁ニ續ク)

Doc. 6257

No. 9

一七、日本海軍及政府が委任統治諸島海軍基地ヲ設定シタル事實ヲ
示ス文書、數多アルモ、簡潔ヲ期シ又ソレガ適切ナルモノナリトノ理由ヨリ
テ、ソノ中、^(作)「^(作)」ヲ提出ス。該文書、即チ日本海軍^(機密)聯合艦隊
命令^(作)第一号(國際檢察部文書オナナ号)ナリ

一八、聯合艦隊司令長官山本大將、命令ヲ一九四一年/昭和十六年
十一月五日頒^(作)艦長^(作)門ヨリ發セリ。(國際檢察部文書七号^(作)頁)
右ハ、對米英蘭戰爭ニ於ケル聯合艦隊ノ作戰、別冊依リ之ヲ
實施スナル命令ナリキ。

ソノ別冊ハ本文表及圖表共百五頁ヨリナリ。其殊^(作)灣攻勢等
(^(作)三十七、^(作)二頁)ニ始ル戰爭ノ作戰大綱ヲ揭ケ、戰爭準備
通信、補給、兵力ノ配置、^(作)他ノ諸事項ヲ規定シアリ。

一九、委任統治諸島ガコノ命令ノ各所ニ見ユ。ニ^(作)三十七頁ニ於テ該
命令ハ補給基地ノ割當ヲ確定シテリ。南洋部隊及先遣部
隊ニ割當テラレタル補給基地次ノ委任統治諸島ナリ
「ガイバニ」「アエゼリニ」「オツゲエ」「アルート」「タロニ」「トラック」「ボネ」
及「バウオ」「コシ」等ノ八基地、斯ク割當テラレタル全海軍補給
基地ノ半数以上ヲ占メアリ。即チ補給基地總數ハ十五ナリ

二〇、ニ^(作)三十八乃至ニ^(作)三十九頁ハ附表オニシテ、補給基地ニ對スル最
初ノ燃料供給量ヲ揭ゲ前記ハ委任統治諸島中五島
ニ對スル汽機油ノ供給量、總計四万六千五百米突噸ナリ。
同様、右委任統治領基地ニ對シタリ、航空油、爆彈、機
関銃彈藥、魚雷及敷設水雷ガ割當シタリ。ハ委任統治
領基地ニ對シ、一日ニ付キ三万六千人分ノ糧食ガ割
當テラレリ。ニ^(作)三十九乃至ニ^(作)四十頁ハ莫大ナル毎月補充供
給數量ガ表ナリ。南洋地域ニ對スル航空機資材
補充ハ「トラック」島ニ於テ作リ、潜水艦資材補充

Doc. 6257

先ハクモゼリニ島ヲテ爲サルコトセラレアリ

二、命令オ一号ガツシ等々委任統治領ノ施設ニ就キ基地ト言フ言葉ヲ用ヒアルハ疑ヒモテ正確ナリ。之ニ関聯スル資材、ソノ數量及地域ノ狀況ハシ等々海軍基地及右基地ニ於ケル貯藏、輸送、通信及銃砲彈藥等、爲ノ施設ガ大規模且長期間ニ亘リ建設セラレタルモノナルコトヲ示シテ、コノ點ニ就キテ他ノ書類ヲ提出且檢討ヲ受ケ得ル如クナリ。

三、委任統治諸島ニ命令オ一号ニ於テ兵力ノ配置直示スル表中ニモ見エ、(三、四、一〇五、一〇六頁)オ四艦隊(普通委任統治領艦隊ト呼バレル)中ニトスル南洋部隊ノ艦隊集合地トシテ南洋即チ委任統治諸島ヲ當テラレアリ。右部隊ハ、コシ等ノ基地ヨリ活動ヲ起シ、眞珠灣攻撃部隊ヲ掩護シテ之ヲ助ケ能フ限り迅速ニウエイク、及ガムヲ攻撃シ且該攻撃部隊ト要地ヲ攻取ルヤガタ協力スベク命セラレアリ。更ニ委任統治領ニ基地ヲ有スルモノニ通商破壊部隊アリ之ハ明ラニ右命令ニヨリ海上交通破壊ヲ擔當セラルタル潛水艦部隊ナリ。オ六艦隊及、他ノ諸艦隊ニ屬スル日本ノ潛水艦ハ常ニ委任統治領ノ諸基地ヲ利用セリ、日本ヨリ眞珠灣ヘノ途次潛水艦ハ、先モゼリニ島ニ停機シタルナリ。

No. 10

三、右ノ如クニシテ、日本海軍ガ一九四一年、昭和十六年、十二月七日以前ニ於テ委任統治諸島ニ於ケル海軍基地ヲ既ニ建設シアリタルコト明瞭ナリ

四、之ト同様ニ日本海軍及政府ガ委任統治諸島ニ要塞ヲ構築セルコトヲ示ス數多ノ文書アリ、簡潔ヲ期スル爲メ三種ノ文書ヨリ成ル一連ノ證據ノミヲ提

Doc 6257

No. 11

- 出ス之等文書、中二冊(國際檢察部六二五四号-A及六二五四号-B)ハ、一九四三年/昭和十七年/一月即チ戦争開始後五月ヲ出デ九時合衆國海軍寫眞情報部隊ニヨリ撮影セラレタル、ウラジエ島ノ空中偵察寫眞ナリナニ、文書(國際檢察部文書六二五四号-C)ハ、一九四〇年/昭和十五年/八月十日白附タル、ウラジエ島ノ日本製青寫眞地圖ニシテ、一九四四年/昭和十九年/アメリカ軍ガウラゼリニ島ニ上陸セル際、國獲セラル。之等ノ寫眞ヲ調べ見ルトウラジエハ、一九四二年/昭和十七年/一月三十一日ヨリ前ニ要塞化サシ島ノ要塞デアルト共ニ海軍ノ基地ヲモ兼ネタル状態備ヲ施サレタモノトガ分ル。青寫眞地圖デハ、一九四〇年/昭和十五年/八月ヨリ前ニ日本ノ海軍ト政府ト、既に決タル要塞化ヲ施シタトガ分ル。ウラジエニ於ケル日本軍ノ施設、大キカ各文書ニ添附シタル各項目悉ク対照、表デ示サレテ居ル。
- 二六、寫眞し一三、ウラジエ島北端ノ國際檢察部文書第六二五四号-Aデハ、島ノ中央ニ飛行場ノ交叉スル鋪裝滑走路二本ガ分ルコトガ分ル。其ノ滑走路ハ各三百呎幅デアリ、二哩以上ノ長サ(五七〇呎、今ツハ三九〇呎ノ長サデアリ)小型飛行機ニハ勿論、陸地ヲ基地トシ大型爆撃機用ニ適シテ中ル。二個(又ハ三個)ノ大格納庫ト二個ノ大キナ工場風ノ建築物ガ滑走路ノ西ニ見エテ居ル。之等格納庫ノ北ニ大キナ木上ノ飛行機斜道ガアリ其處ハ幅一五〇呎デ長サ三〇〇呎位ト思ハル。最近ノ木上飛行機ニ適シテ格納庫ガツアル。
- 二七、多クノ備砲ノ位置直が見ラレ、其中ニハ北側ト南側ノ三門裝置ノ対空ト海岸防禦ノ兩目録ヲ持ッ砲臺ガ有

其ノ各々直グ傍ニ動力庫、軍需品庫、司令塔及兵舎地域ヲ持ツテ居ル。砲八分五寸若クハ六寸砲デアラウ寫眞地圖ノ中ニ濱辺ニ沿ウテ多數ノ框舎が見ラレル。

二八、重油貯藏「タンク」ト彈藥貯藏用建物ト日本製地圖ノ中ニ文字ニヨリ示サレテ居ル。而シテ又寫眞デハ濃々々黒烟ヨリ米國海軍飛行隊が目標トシ其等ノ「タンク」及彈藥庫ノ位置ヲ示シテ居ル。

二九、塹壕、鉄筋コンクリート掩蔽砲床機南銃座、鉄條網、道路ノ連絡梯式及總數五十以上ノ建物モ亦寫眞地圖上デ着取スルコトが出来ル。

三〇、寫眞C-1主(國際檢察部又書六二五四号ノB)デハ大キナ二階建ノ無電送信所ノ建物が見ラレ其ノ横ハニツノ無電塔ガアリ其ノ他ノ建物ヤ「タンク」モアル。

三一、一九四〇年/昭和十五年/八月十日附/此ノ日本製地圖及一九四二年/昭和十七年/八月三十一日作成ノ之等ノ空中寫眞ニ示サレタル「ウツヂエ」ニ於ケル施設ノ總テノ量カラ見ルト日本海軍ト政府トハ少クモ一九四〇年/昭和十五年ノ半バ前カラ恐ラクハ一九四〇年/昭和十五年ト一九四二年/昭和十六年トノ全期間ヲ通ジ基地ノ設置及要塞構築ニ從事シテ居タツトハ明カデアル。此ノ点ニ南スル証據ノ追加トシテ本件ノ他ノ部門ニ於テ日本人ノ爲メニ「ウツヂエ」ニ於テ建設工事ニ働イタ該島嶼ノ住民カラ申立ノ形式デ後日提出サレル由ニ固イテ居ル。

三二、日本海軍ニ依リ作成セラレタル文書即チ聯合艦隊命令ノ作中一号及「ウツヂエ」地圖ハ日本海軍及政府ガ一九四二年/昭和十六年/十二月七日以前ニ海軍

基地ヲ設置シ且要害ヲ構築シラトヲ明ニ示シテ居ルモノト思ハレル。

亦三項

(二十頁)

6257

海軍攻撃ヲ援助シテ領事館同謀行動ニ関スル計畫及準備
三三、多クノ文書ト記録トハ日本海軍ト政府殊ニ外務省ガ
一九三二年／昭和六年／カラ一九四二年／昭和十六年／向ニ米
國海軍及政府ニシテ海軍、施設及活動ニ関シ監視踏査及
向謀政策ヲ取り居リタルコトヲ示シテ居ル。

三四、米國海軍ノ真珠湾攻撃事件本査向会ニ發見事實中ニ
日本同謀制度全世界ニ亘ル其ノ民間人領事及外交官タル國
民ヲ利用シ絶ニ米國海軍ノ建艦計畫及米國海軍艦船ノ
位置及活動靜ニ付日本情報ヲ得セシメテ居タル述ベテ居ル。

三五、日本海軍及政府殊ニ外務省、指揮ノ下ニ広汎且連續的ナル同
謀ガホリニ於テ總領事ニAGAO、ミナモト、喜多永男、及全島
ニ散在スル二百人ノ領事館員ヨリ作ハレル。(三十一頁)

三六、本同謀、性格及範圍殊ニ真、真珠湾攻撃ニ於テ貢獻ヲ爲シ
コトヲ示ス文書ヲ只今茲ニ提出スル。之等ノ文書ハホリル、日本總領
事館ト東京ノ日本海軍及外務省トノ間ニ交換サレタル通信
中、數個モ、確證アル寫シテアリ其通信私設電信會
社ヲ經テ暗号ヲ用テモナノデアリ。

(國際檢察部文書ヲ六二五五号—A、C、D、E、F、G、H及I)

三七、之等通信ノ中、真珠湾内場所ヤ地域ヲ指示シテ居ル事
ヲ了解シテ實ニ爲メ真珠湾ノ海圖ヲ用テシタルデ、
ソレヲ只今提出スルコトニスル。(國際檢察部文書

ヲ六二五八号)

No. 13

6257

NO. 14

三八最初、電報(國際檢案部、文書ヤ六三五五-A号
日本文電報ヤ八三号)ハ東京ヨリ、モ、ニシテ其ノ中ニ
外務大臣豊田海軍大將、氏名記載シアルヲ以テ
外務省ヨリ發セラレタルモノト明カナリ。次、如シ。
東京(豊田)ヨリ

「ブルル」

一九四一年、昭和十六年、九月二十四日。

ハ三番 極秘

以後船舶ニ関シ出来ルダケ次ノ範圍ニ沿フテ御報告
ヲ望ム

一、水域(真珠湾内)ハ大体五ツノ水域ニ区切レル
コト(省思各ハ全然差支ヘナシ)

水域A「フォード」島ト工廠間ノ水域。

水域B「フォード」島南部及び西部ノ島ニ近接セル

水域、コノ水域ハ「水域A」ヨリ島側ニ向ツテ反対
ニ在ル

水域C 東入江

水域D 中央入江

水域E 西入江及之ニ通ズル水路。

二、戦艦及航空母艦ニ関シテハ碇泊中ノモノ(之等ハ
左程重要ナラハルモノ)埠頭、浮標及船渠ニ繫留
中ノモノニ付報告サレタシ。(簡潔ニ型及等級ヲ
指示スルコト。出来得レバ二隻カ又ハ其レ以上ノ艦
船が同一埠頭ニ碇泊シアル場合ハ之ヲ指摘セタシ
陸軍ニ三ニ六〇号

録 一九四一年、昭和十六年、九月十日

(5)

6257

三九 次ノ電文(國際檢察部文書才六二五五—C)号
日本電文第二二号)ハ東京宛、モノニシテ、東郷
外務大臣ノ氏名アルヲ以テ之モ亦外務省ヨリノ電
文ニト明瞭ナリ。電文次ノ如シ。

「東京(東郷)ヨリ

「モノル」(領事)宛

一九四一年/昭和十六年/十二月十五日

第二二号

日米関係ハ最モ危機ニ瀕シテ居ルタメ貴方ノ在港
中ノ船舶ヲシテ一週ニ二度ノ割合ニテ不規則的ニ
報告セシメラレタシ。勿論貴方ニ於テモ既ニ氣付
カレシ事トハ思フガ秘密ヲ保持スルニ特別ノ注意
ヲ拂ハレタシ。

「ドー」六九九— 二五六四

一九四一年/昭和十六年/三月十二日

海軍翻譯一—三一四—(S)

四〇 次ノ電文(國際檢察部文書才六二五五—D)号 (西頁)

日本電文第三二二号)ハ日本總領事ガ真珠湾
攻撃ニ先立ツ一ヶ月足ラズ前ニ東京ニ向テ電信
シアリタル通報ノ形式ヲ示ス。次ノ如シ。

「モノル」(喜多)宛

東京宛

一九四一年/昭和十六年/十二月十八日

第三二二号

一 十五日湾内ニ投錨中ノ軍艦ハ当日附余ノ二九号
ニテ報告ノ通り

No. 15

6257

A水域 - オウラホニ級戦艦入港油槽船一隻出港

C水域 - 重巡級三隻投錨中

二十六日「サラトガ」港内ニナシ。航空母艦「エンタープライズ」又ハ其ノ他、艦船一隻C水域ニアリ、「シカゴ」級重巡三隻「ペンサクラ」級一隻「S」ドックニ繋留中。商船四隻D水域ニ投錨中。

三十七日朝午前十時駆逐艦八隻湾内ニ入港シツアルヲ目撃セラレタリ。ソノ進路次ノ如シ。
千米間隔一列時速三ノットデ真珠湾ニ入りタリ。同港入口ヨリB水域ヲ経テC水域ノ浮標ニ繋留セラレタリ。同艦ハ各回大凡三。度ヅ、五回進路ヲ換ヘタリ。経過時間一時間、併シ是等駆逐艦、ウチ一隻ハ東側ノ貯水池ヲ経テA水域ニ入りタリ。
——轉電セリ。

陸軍三五八七 一九四一年、昭和十六年十一月十二日

艦談(2)

四、次ノ電文(国際檢察部文書第ヤ六二五五—E号) (三頁)
日本電文第一二三号ハ真珠湾攻撃ニ對スル重要ナル三個ノ予備問題ヲ提起スルモノナリ、此電文モ前同様、東郷外相ノ氏名ガ記載シアリ。

之ヲ以テ日本外務省ト日本海軍トノ間ニ密接ナル連絡アリシコトヲ示ス。次ノ如シ。

軍中施設艦船動向其他ニ関スル日本ノ通報(二頁) 東京(東郷ヨリ)

本ノル、宛一九四一年、昭和十六年十一月二日(一九四一年、昭和十六年十一月三十日陸軍ニヨリ綴録)

10.16

J-19

第一二三号(省外機密)

現状ニ鑑ミ戦艦航空母艦巡洋艦ノ港内碇泊ハ極メテ重要ナルコトナリ爾今貴下ハ最善ヲ盡シテ逐一余ニ知ラシメヨ真珠湾上空ニ觀測用気球ノアリヤナシヤ若シクハ該気球ノ上昇セラルベキ徴候ヲ示ス何等カノ動向アリヤ否ヤニタノ場合ニツキ余ニ電信セヨ亦上記戦艦ハ対機電網ヲ準備シアリヤ否アラフ報知セヨ

(ギューン自白書ヲ提出)

(三十三頁)

四、前述日本電文第一二三号ノ發セラレタルト同日即チ一九四一年ノ昭和十六年ノ十二月二日ニ「バーナード、ジュリアス、オット、ギューン」ハ、彼ガ證憑トシテ提出シタル自白書(國際檢察官文書番号第六五六一A及B)ニ據レバ、喜多總領事及ヒ其ノ部下ニ対シ「ホル、レ」ノ總領事館ニ於テ總領事ノ要求シタル情報ト文書トヲ手交シタリ。彼ノ自供スル処ニヨレバ、「ギューン」ハ明カニ一カ所ヲ下ラサル相当ナル金額ヲ支拂ハレタリ。ソレハ日本總領事ニ対シ、從ツテ又日本海軍、東京ノ外務省ニ対シカ、ル情報ヲ提供シタルニヨリテナリ。「ギューン」ノ手交シタル情報及ビ文書ニハ在港中ノ米國艦艇ニ関シ其ノ港内ニ於ケル碇泊場所ヲ示ス外極メテ明細ナル記述カアリ、又更ニ信号用ノ包括的符号ヲ附モアリタリ。此ノ信号簿ヲ以テ真珠湾ニ向テ航行途上ノ日本軍潜水艦又ハ日本軍海軍部隊ニ上述ノ如キ情報ヲ

6257

通報之得タルモノナリ。

四三「キエー」ヨリ喜多總領事ノ受領セルガマニ、全ク
逐語的ニ反覆セル「キエー」暗号ハ、喜多ヨリ正
シク一九四一年、昭和十六年十二月三日附ノ通信ヲ以テ
東京ニ傳達サレタリ。通信文ニ述ベアル「ミカイ、海岸
莊並ニ「カラ」ニ莊トハ「キエー」ノ告白ニ依リハ彼ノ占メ
アリシ家ナリキ。本通信文(國際檢察部書類
才六三五五号ノ下、日本通信文第二四五号)
ハ左ノ如シ。

四四「ホー」(喜多)宛 Honolulu (Kita)
東京宛

一九四一年、昭和十六年十二月三日(一九四一年、昭和十六年
十二月十一日海軍記)

(PA-K-2)

第二四五号(二部ニテ完成ス)

(軍令秘達)

富士一郎ヨリ陸軍參謀本部第三課長宛

一、余ハ暗号ニヨリ通信方法ヲ次ノ如ク変更スルコトヲ
希望ス。

(一)八箇ノ暗号ヲ次ノ三行ニ配列ス

意味

偵察艦及牽制部隊 出撃準備中 暗号 1.

又名ハ戦闘艦令隊

数隻ノ航空母艦 出撃準備中 2.

戦闘艦令隊

一日ヨリ三日ノ間全部出撃 3

航空母艦

一日ヨリ三日ノ間数隻出撃 4

NO. 18

6257

通報之得タルモノナリ。

四三「キエー」ヨリ喜多總領事ノ受領セリガマニ全ク
逐語的ニ反覆セル「キエー」暗号ハ喜多ヨリ正
シク一九四一年／昭和十六年十二月三日附ノ通信ヲ以テ
東京ニ傳達セシタリ。通信文ニ述ベアル「ニカイ」海岸
莊並ビ「カラ」莊トハ「キエー」ノ告白ニ依リハ彼ノ占メ
アリシ家ナリキ。本通信文(國際檢察部書類
オ六三五五号ノ下、日本通信文第二四五号)
ハ左ノ如シ。

四「ホイル」(喜多)宛 Honolulu (Kita)
東京宛

一九四一年／昭和十六年十二月三日(一九四一年／昭和十六年
十二月十一日海軍記)

(PAIRKZ)

第二四五号(二部ニテ完成ス)

(軍部秘達)

富士一郎ヨリ陸軍參謀本部第三課長宛

一余ハ暗号ニヨリ通信方法ヲ次ノ如ク変更スルコトヲ
希望ス。

(一)八箇ノ暗号ヲ次ノ三行ニ配列ス

意味

暗号

偵察艦及牽制部隊 出撃準備中 1.

又名ハ戦闘艦分隊

数隻ノ航空母艦 出撃準備中 2.

戦闘艦分隊

一日ヨリ三日ノ間全部出撃 3

航空母艦

一日ヨリ三日ノ間数隻出撃 4

NO. 18

6257

| | | |
|------|---------------|---|
| 航空母艦 | 一日ヨリ三日ノ間ニ全部出航 | 5 |
| 戦艦隊 | 四日ヨリ六日ノ間ニ全部出航 | 6 |
| 航空母艦 | 四日ヨリ六日ノ間ニ数隻出航 | 7 |
| 航空母艦 | 四日ヨリ六日ノ間ニ全部出航 | 8 |

(2) 暗号

(一) 「ラニカイ」* Lanikai 海浜家屋、夜間、如ク点燈ス

| | | |
|----|------------|----|
| 一燈 | 午後八時ヨリ九時 | 暗号 |
| 〃 | 午後九時ヨリ十時 | |
| 〃 | 午後十時ヨリ十一時 | |
| 〃 | 午後十一時ヨリ十二時 | |

| | | | |
|-----|----------|-----------|----|
| (二) | 二燈 | 十二時ヨリ午前一時 | 暗号 |
| 〃 | 午前一時ヨリ二時 | | |
| 〃 | 午前二時ヨリ三時 | | |
| 〃 | 午前三時ヨリ四時 | | |

第三部

(三) 「ラニカイ」 Lanikai 湾畫門

ヨット (star boat) 帆上部ニ一ツノ星ヲ附シタル場合
 之ハ暗号ハ、之ヲ若クハ「4」ヲ示ス。若シ一ツノ星ト
 ロ一ニ数字五ヲ附シタル場合ハ暗号「5」若クハ
 「8」ヲ示ス

(四) 「カラマ」 Kalama 家、屋根裏部屋、窓、燈火ハ
 以下、如ク示ス。

No. 19

6257

No. 20

| 時 | 暗号 |
|------------|----|
| 十九時ヨリ二十時 | 3 |
| 二十時ヨリ二十一時 | 4 |
| 二十一時ヨリ二十二時 | 5 |
| 二十二時ヨリ二十三時 | 6 |
| 二十三時ヨリ二十四時 | 7 |
| 二十四時ヨリ一時 | 8 |

(五) ケーシー・エム・シー K.G.M.B. 水廣告
 (A) 支那紙煙等賣渡之郵便局(私書)箱一四七六ニ
 申込マシタシ、ハ暗号3若クハ6ヲ示ス
 (B) C.H.C.C. 農場等郵便局(私書)箱一四七六ニ
 申込マシタシ、ハ暗号4若クハ7ヲ示ス
 (C) 美容術師ヨリ本々等郵便局(私書)箱一四七六ニ
 申込マシタシ、ハ暗号5若クハ8ヲ示ス
 (3) 若シ上記、暗号ト無線通信ガ「オア」 Calm ヲ為シ
 得ザルトキハ「マウ」 Mami 島「ク」 Kula 療養所、
 北方大哩「ロウ」 Lower Kula 街ト「ア」 アカラ
 Haleakala 街(緯を二十度四十分也方經交面五十六分
 十九分西方海ニ向キ南東「マウ」 Mami 島、南西ニ見
 得ル)ノ中間ノ地ト是ニ於テ次定井ハ暗号ヲ毎日貴方E X E X
 ノ暗号ヲ受フル迄為スベシ

| 時 | 暗号 |
|--------|---------|
| 七時ヨリ八時 | 3 若クハ 6 |
| 八時ヨリ九時 | 4 若クハ 7 |
| 九時ヨリ十時 | 5 若クハ 8 |

時

十九時ヨリ二十時

二十時ヨリ二十一時

二十一時ヨリ二十二時

二十二時ヨリ二十三時

二十三時ヨリ二十四時

二十四時ヨリ一時

暗号

3

4

5

6

7

8

(五) ケージーエムビー 不立山 求廣告

(A) 支那紙毯等賣渡シ郵便局(私書)箱一四七六ニ

申込マレタシハ暗号ハ若クハ6ヲ示ス

(B) C.H.C.C.O農場等郵便局(私書)箱一四七六ニ

申込マレタシハ暗号ハ若クハ7ヲ示ス

(C) 美容術師ヲ求ム等郵便局(私書)箱一四七六ニ

申込マレタシハ暗号ハ若シハ8ヲ示ス

(3) 若シ上記ノ暗号ト無線通信ガ「オア」Cabinヨリ為シ

得ザルトキハ「マウイ」Mau 島「Kula 療養所」

北方大哩「ロウークラ」Lauva Kula 街ト「バレアカラ」

Kaleakala 街(緯を三十分四十分並方経を百五十六分

十九分西方海ニ向キ南東「マウイ」Mau 島ノ南西ニ見

得ルノ中間ノ地矣ニ於テ次第々々暗号ヲ毎日貴方EXEX

ノ暗号ヲ受クル迄為スベシ

時

暗号

七時ヨリ八時

八時ヨリ九時

九時ヨリ十時

3 若クハ6

4 若クハ7

5 若クハ8

6257

| 時 | 暗号 |
|------------|----|
| 十九時ヨリ二十時 | 3 |
| 二十時ヨリ二十一時 | 4 |
| 二十一時ヨリ二十二時 | 5 |
| 二十二時ヨリ二十三時 | 6 |
| 二十三時ヨリ二十四時 | 7 |
| 二十四時ヨリ一時 | 8 |

- (五) ケーシー・エム・ビー K.G.M.B. 本廣告
- (A) 「支那紙煙等賣渡」郵便局(私書)箱一四七六ニ
申込マシタシ、ハ暗号3若クハ6ヲ示ス
- (B) 「C.H.C.C.農場等」郵便局(私書)箱一四七六ニ
申込マシタシ、ハ暗号4若クハ7ヲ示ス
- (C) 「美容術師」本「等」郵便局(私書)箱一四七六ニ
申込マシタシ、ハ暗号5若クハ8ヲ示ス
- (3) 若シ上記、暗号ト無線通信ガ「オア」Oahuヨリ島ニ
得ザルトキハ「マウイ」Maui島「ク」Kula森養所、
北方大哩「ロウ」Lower Kula 街ト「ハ」アカラ
Haleakala 街(緯を三々四々分世方経を百五十六分
十九分西方海ニ向キ南東「マウイ」Maui島、南西ニ見
得ル)ノ中間ノ地矣ニ於テ次々暗号ヲ毎日貴方「E」E
ノ暗号ヲ受クニ迄為スベシ

No. 20

| 時 | 暗号 |
|--------|-------|
| 七時ヨリ八時 | 3若クハ6 |
| 八時ヨリ九時 | 4若クハ7 |
| 九時ヨリ十時 | 5若クハ8 |

Doc 6257

四五、更ニ外務大臣、知ニ於テ提出セラレタル要求ニ應ジ、喜多
從領事ハ次、如キ通信ヲ送レモ、本通信ガ其、後真珠湾
ニ近ツキツ、アリシ日本艦隊ニ順次轉電セラレシトハ疑ナシ。
一九四一年/昭和十六年/十二月五日付、本通信(國際檢察
部書類ヤスニ五五号ノG、日本通信文ヤスニ五五号)ハ左
如シ。

ホノルル發 Honolulu
東京宛

一九四一年/昭和十六年/十二月五日(一九四二年十二月十日海
軍訳)

(P-A-I-K-Z)

二五二号

(一) 五日金曜日午前、余、通報 ヤスニ三九号ニ於テ既述、
三戦艦当地ニ到着セリ。 コレハ八日間海洋ニ居
リシモノナリ。

(二) 「レキシントン」 Lexington 並ニ、五重巡同日出港セリ。
(三) 左記艦船ハ、五日午後港内ニアリ。

| | |
|-----|-----|
| 戦艦 | 八隻 |
| 輕巡 | 三隻 |
| 驅逐艦 | 十六隻 |

ホノルル Honolulu 級、四艦並ニ.....ハ船渠ニ
オレリ。

- No. 21

四五 更ニ外務大臣ノ如ニ於テ提出セラレタル要求ニ應ジ、善ヲ

総領事ハ次ノ如キ通信ヲ送レルモ、本通信ガ其ノ後眞珠湾

ニ近ツキツアリシ日本艦隊ニ順次轉電セラレコトハ疑ナレ

一九四一年ノ昭和十六年ノ十月五日付ノ本通信(國際檢察

部書類ヤスニ五五号ノG、日本通信又ヤニ五五号)ハ左

ノ如シ

「ホルル發 Honolulu

東京宛

一九四一年ノ昭和十六年ノ十二月五日(一九四一年十月十日海

軍沢)

(PAIRK)

ニクニ号

(一) 五日金曜日午前、余ノ通報 ヤニ三九号ニ於テ既述ノ

三戦艦当地ニ到着セリ。 コレハ八日間海洋ニ居

リレモナリ。

(二) 「レキレント」 Lexington 並ニ、五重巡同日出港セリ。

(三) 左記艦船ハ五日午後瑞内ニアリ。

戦艦 八隻

軽巡 三隻

駆逐艦 十六隻

ホルル Honolulu 級ノ四艦 並ニ、ハ船渠ニ

オレリ。

Doc 6257

四六、

「ホルル」發、東京宛 十二月六日附、通信ハ、通信ノ述べ
ル「奇襲」ニ関スル直接的情報ヲ提供スルモノニテ且ツ
防空網及ビ水雷防禦網ナル重要問題ヲ扱ヒ、本通
信文(國際檢察部書類カキタテ、H、日本通信文カ
二五三号)ハ左ノ如シ。

「ホルル」

Idonakute / 發

東京 宛

一九四一年/昭和十六年 / 十二月六日(一九四一年十二月八日
陸軍派)

PAIRK 2

カニ五三號

貴方一二三號ノ最後ノ部分ニ関シ

米國大陸ニ於テ十月ニ陸軍ハ「ノース・キャロライナ」

North Carolina

「デグリス」Davis

兵舎ニテ防空

網部隊ノ訓練ヲ開始セリ。彼等ハ四百ノ氣球ヲ注

向シタノミナラス「ハワイ」Hawaii

「アモイ」Amoy

及ビ「バナナ」Banana

「Panama」Panama 防禦ニモラ氣球ヲ使用セト考慮セラル

ト思ハル。「ハワイ」Hawaii

「アモイ」Amoy

ニ関スル限り眞球偽

附近ノ調査が行ハレタルガ、彼等ハ、懸留施設モ為サ

ズ又ソレニ、配員スベキ部隊ノ選定モ、為レオラス。

更ニ氣球保持ノ訓練ガ何等カ、企テラレオカ如キ徴候

更ニナレ、現在ト云、防空網施設ノ形跡ナレ、更ニ彼等

が實際、防空網施設ト稱スルモノヲ持テ居ルト考フルト

困難ナリ。乍然彼等ハ眞珠湾「ヒッカ」Hickam

「ウィック」Wickham

Doc 6257

四六、

「ホルル」發、東京宛 十二月六日附、通信ハ、通信ノ述ベキ
ル「奇襲」ニ關スル直接的情報ヲ提供スルモノニテ且ツ
防空網及ビ水雷防禦網タル重要問題ヲ扱ヒリ、本通
信文(國際檢索部書類ヲミナシ、H、日本通信文ヲ
ニ五五号)ハ左ノ如シ。

「ホルル」發

東京 宛

一九四一年/昭和十六年 十二月六日(一九四一年十月八日)

陸軍派)

PAIRK 2

オニ五三號

貴方一ニ三號ノ最後ノ部分ニ關シ

米國大陸ニ於テ十月ニ陸軍ハ「ノース・キャロライナ」

North Carolina / テキサス Texas / 兵舎ニテ防空

網部隊ノ訓練ヲ開始セリ。彼等ハ四百ノ氣球ヲ注

向シタノミナラス「ハワイ」Aleutian / 及ビ「バナル」

Panama / 防禦ニモラ氣球ヲ使用セト考慮セラルモノ

ト思ハル。「ハワイ」Aleutian / 更スル限リ眞球隱

附近ノ調査が行ハレタルガ、彼等ハ、懸留施設ヲ為サ

ズ又ソレヲ、配負スベキ部隊ノ選定モ、為レオラス。

更ニ氣球保持ノ訓練カ何等カ、企テレアルカ如キ徵候

更ニナレ。現在ノトモ、防空網施設ノ形跡ナレ。更ニ彼等

が實際、防空網施設ト稱スルモノヲ持テ居ルトモフルト

困難ナリ。乍然彼等ハ眞珠灣「ヒッカム」Midway

Doc 6257

No. 22

四六、^{「ホ、ル」}發、東京宛 十二月六日附、通信ハ、通信ノ述ベキ
ル「奇襲」ニ関スル直接的情報ヲ提供スルモノニテ且ツ
防空網及ヒ水雷防禦網ナル重要問題ヲ扱ヒ、本通
信文(國際檢察部書類ヲ送リ、H、日本通信文第
二五三號)ハ左ノ如シ。

^{「ホ、ル」} / ^{London} / 發

東京 宛

一九四二年 / 昭和十六年 / 十二月六日 (一九四一年十二月六日)

陸軍 沢)

PA-1-K 2

カニ五三號

貴方一三三號、最後、部分ニ関シ

一、米國大陸ニ於テ十月ニ陸軍ハ「ノース・キャロライナ」
/ ^{North Carolina} / ^{デグス} ^{Davis} 兵舎ニテ防空
網部隊、訓練ヲ開始セリ。彼等ハ四百ノ气球ヲ經
向シタミナラズ「ハワイ」 / ^{Hawaii} / 及ヒ「パナマ」
/ ^{Panama} / 防禦ニモラ气球ヲ使用セト考慮シ、
ト思ハル。「ハワイ」 / ^{Hawaii} / 二便ス限リ真珠灣
附近、調査が行ハタルガ、彼等ハ、懸留施設ヲ為サ
ズ又シテ、配負スベキ部隊、選定モ、爲シオズ。
更ニ气球保持、訓練ガ何等カ、企テラレタルガ如キ徵候
更ニナシ。現在、トモ、防空網施設、形跡ナシ。更ニ彼等
ガ實際、防空網施設ト稱スルモノヲ持テ居ルト考フルト
困難ナリ。乍然彼等ハ真珠灣「ヒカム」 / ^{Hickam} /

「フィート」/「マク」/「星」/「エフ」/「E」/「附近」/「空港」
 水上並ニ陸上滑走路ノ上空ヲ制セバオラヌタメ實際ニ準備
 ヲナレタリト雖モ眞珠湾ノ気球防禦ニハ限界アリ。余ハ
 コレヲ場所ニ対シ奇襲スル為ニ利用スル機会が確ニ相
 当残サレテアルモノト考フルモノナリ。
 二、余ノ見解ニテハ、己等戦艦ハ魚雷網持ス。
 詳細ハ不明。尙余ノ調査ノ結果ヲ報告セシ。

四、攻撃ノ前夜、日本総領事ハ眞珠湾ニ碇泊、又ハ艦ヲ留
 中ノ船舶ニ南シ、次ノ通信ヲ東京ニ發セリ。ソノ通信ハ(國際
 檢察部 書類ヲ六五五号ノ工 日本通信才五五号)
 ニテ改メ如シ。

「ホルル」發

東京 向

一九四一年/昭和十六年/十二月六日(一九四一年十二月六日
 軍ニ依リ翻訳スル)

PA-K 2

才五五四號

一、五日ノ夕刻、入港志軍艦ノ中ニハ、及ヒ潜水
 母艦一隻アリタリ。次ノ船舶ハ六日碇泊中ナルヲ認
 メシタリ。

戦艦九隻、輕巡洋艦三隻、潜水母艦三隻
 駆逐艦十七隻、更ニ加フルニ輕巡洋艦四隻、
 駆逐艦二隻が碇泊留ナレリ。(重巡洋艦及航空母
 艦ハスベテ出タリセリ)
 二、艦隊航空部隊ニ依リ空ヲラノ偵察ハ行ハルツル模様
 ナレシ。

6257

No. 24

四八、

日本ノ諜報及偵察ニ関シ、コ、ニ、提出セル書類ハ
ポノルニ於ケル領事情報ニ関スルモノノ少数ニ限定セ
リ、日本海軍及外務省ガ此ノ領事情報ヲ真珠湾攻
撃ノ補助トシテ計画シ実施セル行爲ハ、侵略戦争準
備爲メ他行爲ト同種ナルコトヲ示セバナリ

才 四項

(三三頁)

日本側ヨリ、合衆軍ニ対シ、日本ガ合衆軍ト戦闘ヲ開始ス
ルト云フ明白ナル、而シテ道理ニ基キタル警告ヲ前以テ通告
セズシテ一九四一年ノ昭和十六年十二月七日ハワイニ真珠湾
ニテ合衆國海軍兵員及艦船ニ対シテナスベキ日本
空母機動部隊ニ依リ秘密攻撃ノ計画ト準備

五〇、航空母艦ノ建造及委任統治領ニ於ケル海軍根據地
及必要要塞ノ建設ニ関シ日本海軍ノ爲メタル計画及
準備ハ既ニ提出セリ。海軍ノ奇襲ヲ準備トシテノ領
ヲ偵察行動ニ関スル、日本海軍ノ計画及準備ニ
モ亦考慮ヲ拂ヘリ航空母艦及必要要塞化サレタル島嶼基
地並ニ探知報告ヲ用ヒタル真珠湾攻撃ニ関スル以上ノ
計画ノ完成セルモノヲ次ニ示ス。

五一、本攻撃ノ(1)ノ目的、(2)計画(3)遂行ノ諸点ヨリ
考察ス。

五二、攻撃ノ分析ニ用ヒラレタル書類ハ主トシテ

(1)機密聯合艦隊命令作才一(國際檢察部書
類才一七号)

(2)聯合軍最高司令官、聯合軍飛
調查報告三三号、一九四五年ノ昭和二十年十一月一日附

Poe 6257

五三、

「日本、戦争決意」ト題スル書類

(國際檢察部書類オ一六二八号)及

(三四頁)

(3) 眞珠湾作戦ト題スル同出所(以後A.T.Sト呼ブ)

ヨリ得タル調査報告オ一三二号(國際檢察部書類
オ一六二七号)

一 眞珠湾攻撃、目的ハ永野海軍大將ニ依リ次、如ク
述ベラレタリ。

(1) 南洋作戦(比島ヲ含ム)ニ対スル行動ノ自由ヲ確保
シ且ツ時間的餘裕ヲ得ルヲ爲メ合衆國太平洋艦隊
ヲ無力化シ

(2) 併セテ我々委任統治諸島ノ防衛ヲ期セントス。

(國際檢察部書類

オ一六二八号六六頁)

No. 25

五四、

聯合艦隊參謀長伊藤大將、次、通リ言明セリ

即チ眞珠湾、艦隊ハ開戦最初、一撃ヨリ、完全ニ粉

砕セラルベシ。若シ亞米利加ガ準備不充分、同ニ

攻撃ニヨリ、不テ、重西支那ヲ攻撃、及び思召取スル事ニヨリ

開戦頭初ニ吾々、戦果的覇權ヲ確保スルヲハ爾

後ノ作戦、規模ヲ有利ニ支配シ得ベシ(國際檢

察部書類オ一六二七号P.七、八)

機密聯合艦隊命令作オ一号ニ七八頁

(國際檢察部書類オ一七号)、中ニ日本ノ全
作戦、一般目的ガ次、如ク述ベラレタリ。

Poe 6257

五三、

「日本、戦争決意」と題スル書類

(国際検査部書類才一六二八号)及

(三四頁)

(3) 真珠湾作戦ト題スル同出所(以後A T-Sト呼ブ)

ヨリ得タル調査報告才三三三号(国際検査部書類才一六二七号)

一 真珠湾攻撃、目的ハ永野海軍大將ニ依リ次、如ク述ベラレタリ。

1) 南洋作戦(比島ヲ含ム)ニ対スル行動ノ自由ヲ確保シ且ツ時間的餘裕ヲ得ルヲ爲メ合衆國太平洋艦隊ヲ無力化シ

(2) 併セテ我々委任統治諸島ノ防衛ヲ期セントス。

(国際検査部書類

才一六二八号六六頁)

聯合艦隊參謀長伊藤大將、次、通リ言明セリ

即チ真珠湾、艦隊ハ開戦最初、撃ミ、完全ニ粉

碎セラレベシ。若シ亞米利加ガ準備不十分、同ニ

撃テ、コリ、ス、重傷ヲ攻撃、及び思各取スル事ナリ

開戦頭初二日、戦果的西朝權ヲ確保スルヲハ爾

後ノ作戦ノ規模ヲ有利ニ支配シ得ベシ(国際検査

部書類才一六二七号PP. 七、八)

機密聯合艦隊命令作才一七号ニ七八頁

(国際検査部書類才一七号)、中ニ日本ノ全

作戦ノ一般目的ガ次、如ク述ベラレタリ。

No. 25

五四、

Poe 6257

五三、

日本、戦争決意ト題スル書類

(國際檢察部書類オ一六二八号)及

(三四頁)

(3) 真珠湾作戦ト題スル同出所(以後A.T.ト呼ブ)

ヨリ得タル調査報告オ一三二号(國際檢察部書類
オ一六二七号)

一 真珠湾攻撃、目的、永野海軍大將ニ依リ次、如ク
述ベラレタリ。

(1) 南洋作戦(比島ヲ含ム)ニ対スル行動ノ自由ヲ確保
シ且ツ時間的餘裕ヲ得ルヲ為シ合衆國太平洋艦隊
ヲ無力化シ

(2) 併セテ我々委任統治諸島ノ防衛ヲ期スニトス。

(國際檢察部書類

オ一六二八号ニ六頁)

聯合艦隊參謀長伊藤大將、次、通リ言明セリ

即チ真珠湾、艦隊ハ開戦最初、一撃ヨリ、完全ニ粉

砕セラルベシ。若シ亞米利加ガ準備不十分、同ニ

攻撃ニヨリ、不テ、重傷ヲ攻撃及ビ思召取スル事ナリ

開戦頭初ニ吾々、戦果的覇權ヲ確保スルヲバ爾

後ノ作戦ノ規模ヲ有利ニ支配シ得ベシ(國際檢察

部書類オ一六二七号P.七、八)

機密聯合艦隊命令作オ一七号ニ七八頁

(國際檢察部書類オ一七号)、中ニ日本ノ全

作戦ノ一般目的ガ次、如ク述ベラレタリ。

No. 25

五四、

Poe 6257

五三、

「日本、戦争決意」ト題スル書類

(国際検査部書類オ一六二八号)及

(三四頁)

(3) 真珠湾作戦ト題スル同出所(以後A.T.Sト呼ブ)

ヨリ得タル調査報告オ一三二号(国際検査部書類オ一六二七号)

一 真珠湾攻撃、目的、永野海軍大將ニ依リ次、如ク述ベラレタリ。

ii 南洋作戦(比島ヲ含ム)ニ対スル行動ノ自由ヲ確保シ且ツ時間的餘裕ヲ得ルヲ為シ合衆國太平洋艦隊ヲ無力化シ

(2) 併セテ我々委任統治諸島ノ防衛ヲ期セントス。

(国際検査部書類

オ一六二八号六六頁)

聯合艦隊參謀長伊藤大將、次、通り言明セリ即チ真珠湾、艦隊、開戦最初、一撃ヨリ、完全ニ粉碎セラレベシ。若シ亞米利加が準備不十分、同一攻撃ニヨリ、不意に重傷ヲ受ケ、及ビ思召取スル事ナリ

開戦頭初二日、戦果の西覇權ヲ確保スルヲバ爾後ノ作戦ノ規模ヲ有利ニ支配シ得ベシ(国際検査部書類オ一六二七号PP.七、八)

機密聯合艦隊命令作オ一号ニ七八頁

(国際検査部書類オ一七号)、中ニ日本ノ全作戦ノ一般目的ガ次、如ク述ベラレタリ。

No. 25

五四、

No. 6257

- 一、東方ニ対シテ、米國艦隊ヲ撃破シ且、東洋ニ對スル米國ノ作戰線及補給線ヲ遮断ス。
- 二、西方ニ對シテ、英領馬來方面ヲ攻略シ英國ノ東洋ニ對スル作戰線、補給線及「ビルマ」トヲ遮断ス。
- 三、在東洋敵兵ヲ撃滅シ、其ノ作戰據矣ヲ奪フトス。
- 四、要地ヲ攻略開發、防備ヲ強化シ、持久作戰態勢ヲ確保ス。
- 五、敵兵ヲ撃滅、撃滅ス。
- 六、戰果ヲ擴大シ、敵ノ戰意ヲ奪フ。

五五、一、永野ノ云フ處ニ依ル、眞珠湾攻撃ノ計思ハ、一九四一年ノ昭和十六年ノ一月初旬、小本ニ依リテ想見セリ。一九四二年ノ昭和十六年ノ九月ヨリ作戰參謀將校ニ依リテ立案セタルモノナリ。(國際檢察部書類中三六〇三六頁) 前以テ全計畫ヲ承知シ居リタル日本海軍軍人、中ニ、永野及小本アリ。計畫、一部ヲ知居リタル者ニ、海軍大臣、島田海軍大將及海軍々務局長岡海軍大將アリ。(同三六頁) 該計畫、仕上メ備ヘテ一九四二年ノ昭和十六年ノ九月二日ヨリ、十三日ニ至ルニテ、東京ニ於テ戰爭圖上作戰演習ヲ催セリ。約四十人、重要ナル日本海軍將校ハ是ニ參加シ永野ハ最上位ノ將校トシテ審判ヲ勸メタリ。

(同四九、五六頁)

No. 28

Doc 6257

五六 該計画、準備ニ参画セル日本海軍將校ニ依リテ解決スベキ問題ハ如何ニシテ最モ有効ニ布哇方面ノ合衆國太平洋艦隊ヲ攻撃スベキニアリタリ。

彼等ハ次、如ク述べ居タリ。即チ「布哇方面ニ於ケル合衆國太平洋艦隊ノ主力ヲ最モ効果的ニ無力化セシムルニハ破泊艦ヲ雷撃スルニアリト決定セラレタリ。此ノ故ニ次、二ツノ障碍ヲ考慮セリ。

(a) 真珠湾ノ狭隘ニシテ、浅海面ナルヲ実

(b) 真珠湾ニハ多分魚雷防禦網ヲ裝備シアルニキコト

(c) (a) 項ニ対シテハ魚雷ニ安定器ヲ附シソレヲ超低高度発射スルコトヲ計画セリ。

(d) (b) 項ニ対シテハ奏效ノ算少キヲ以テ爆撃ヲ併用セリ。

五七 次、問題ハ燃料補給ト奇襲遂行トデアツク。是等、莫ニ付キ同將校等ハ次、如ク述べタ。(同六十八頁) 即チ「燃料補給ノ能カト奇襲ト、何レモ本作戰、鍵ニシテ何レヲ缺クト雖モ作戰遂行ハ不可能ナリト

洋上ノ燃料補給ハソノ遂行ニ独特ノ訓練ヲ要スルモデアツク。奇襲ヲ確實ニスル為、船舶ノ往來ノ少キ北方大洋航路ヲ取ラシナクシバナラヌ。亦衛戍管制偵察驅逐艦が先航サセラレヌバナラヌ。又洋上ニ於イテハ完全ナ「ラジオ」ノ停止が實施サレヌバナラヌ。他方瀬戸内海及ビ九州地域ニ於テ欺瞞的「ラジオ」活動が行ハナクシバナラナカハタリ。(同六十八頁)

五八 南雲提督麾下、而シテ六隻ノ航空母艦ヨリ

No. 27

Doc 6257

五六 該計画、準備ニ参画セル日本海軍將校ニ依リテ解決スベキ問題ハ如何ニシテ最モ有効ニ布哇方面ノ合衆國太平洋艦隊ヲ攻撃スベキニアリタリ。

彼等ハ次、如ク述ベ居タリ。即チ「布哇方面ニ於ケル合衆國太平洋艦隊ノ主力ヲ最モ効果的ニ無力化セシムルニ破泊艦ヲ雷撃スルニアリト決定セラレタリ。此ノ故ニ次、二ツノ障碍ヲ考慮セリ。

(a) 真珠湾ハ狹隘ニシテ、浅海面ナルヲ要ス。

(b) 真珠湾ニハ多分魚雷防禦網ヲ裝備シアルニキコト

(c) (a) 項ニ対シテハ魚雷ニ安定器ヲ附シテ超底高度発射スルコトヲ計画セリ。

(d) (b) 項ニ対シテハ奏效ノ算少キヲ以テ爆撃ヲ併用セリ。

五七 次、問題ハ燃料補給ト奇襲遂行トデアル。是等、莫ニ付キ同將校等ハ次、如ク述ベタ。(同六十八頁) 即チ「燃料補給ノ能カト奇襲ト、何レモ本作戰、鍵ニシテ何レヲ缺クト雖モ作戰遂行ハ不可能ナリト

洋上ノ燃料補給ハソノ遂行ニ独特ノ訓練ヲ要スルモデアル。奇襲ヲ確實ニスル爲、船舶ノ往來ノ少キ北方大洋航路ヲ取リシテ行ハナラヌ。亦衛戍管制偵察駆逐艦ガ先航サセラレネバナラズ。又洋上ニ於テハ完全ナ「ラジオ」ノ停止ガ実施サレネバナラズ。他方瀬戸内海及ビ九州地域ニ於テ欺瞞的「ラジオ」活動ガ行ハナラナカハ。 (同六十八頁)

五八 南雲提督麾下、而シテ六隻ノ航空母艦ヨリ

No. 27

Doc 6257

成り、二隻、戦艦、二隻、重巡洋艦、一隻、軽巡洋艦
七隻、駆逐艦、三隻、潜水艦、及び八隻、並運送
船ニ依リ掩護サレタ。選抜機動部隊編成ヲソノ計
画ハ詳細ニ規定シタノデアツタ。(同八十三頁) 追加部
隊ハ普通ノ潜水艦及び特別訓練ヲ受ケタ將校ハ
末組ニシテ潜水艦、兩者ノ潜水艦ヲ含ニテナク。
(同七十八頁、國際檢察部文書ヲ十六百二十七号、
十七百二十三頁) 空母積載攻撃機ハ三百六十機デア
ツタ、即チ急降下爆撃機百三十五機、水平爆撃
機百四機、雷撃機四十機、及び八十一機、地上銃撃機
デアツタ。攻撃目標ハ主トシテ航空母艦、空軍基地及
地上アル航空機ニ定メラレテ居ッタ。然レ遂行ニ際シ
航空母艦が居ナカッタノデ戦艦が特別ナル注意ヲ受
ケタノデアツタ。(國際檢察部文書ヲ十六百二十八号、
八十四頁)

五九、ソノ計画ハ又各所ニ於イテヨリ劣勢ナ艦隊ノ活動
ヲモ規定シタノデアツタ。(國際檢察部文書ヲ十七号二
ノ四一六頁)

六、真珠湾攻撃ニ対スル本計画ニ於イテモ又海軍記録中
ノ如何ナル也、日本文書中ニモ私ハ立案者が攻撃前、
警告ヲ要求スルオ三回海牙條約、適用乃至不通
用ニ付イテ何等カ、考慮ヲ拂ツタトイフ何等、證
跡ヲ認メナイノデアル。

六、計画、遂行

一九四一年/昭和十六年/十一月五日、永野海軍大將ハ山
本提督ニ対シ命令ヲ發セリ(國際檢察部文書

No. 28

成り、二隻、戦艦、二隻、重巡洋艦、一隻、輕巡洋艦、
 工隻、驅逐艦、三隻、潜水艦、及ビ八隻、屯運送
 船ニ依リ掩護サレタ。選抜機動部隊編成ヲソノ計
 画ハ詳細ニ規定セタノデアツタ。(同八十三頁) 追加部
 隊ハ普通ノ潜水艦及ビ特別訓練ヲ受ケタ將校ハ
 末組ニダ豆潜水艦ノ兩者ノ潜水艦ヲ含ニテナク。
 (同七十八頁、國際檢察部文書ヲ十六百二十七号、
 ナ七一二十三頁) 空母積載攻撃機ハ三百六十機デア
 ツタ、即チ急降下爆撃機百三十五機、水平爆撃機
 機百四機、雷撃機四十機、及ビ八十一機、地上銃撃機
 デアツタ。攻撃目標ハ主トシテ航空母艦、空軍基地及
 地上ニアル航空機ニ定メラレテ居ッタ。然レ遂行ニ際シ
 航空母艦ハ居ナカッタノデ戦艦ハ特別ナル注意ヲ受
 ケタノデアツタ。(國際檢察部文書ヲ十六百二十八号、
 ハ四頁)

五九、ソノ計画ハ又各所ニ於イテ、ヨリ劣勢ナ艦隊ノ活動
 ラモ規定シタノデアツタ。(國際檢察部文書ヲ十七号ニ
 一〇四一六頁)

六〇、真珠湾攻撃ニ対スル本計画ニ於イテモ又海軍記録中
 ノ如何ナル他ノ日本文書中ニモ私ハ立案者が攻撃前ノ
 警告ヲ要求スルオ三回海牙條約ノ適用乃至不適
 用ニ付イテ何等カノ考慮ヲ拂ッタトイフ何等ノ證
 跡ヲ認メナイノデアル。

六、計画ノ遂行

一九四一年ノ昭和十六年ノ十一月五日、永野海軍大將ハ山
 本提督ニ対シ命令ヲ發セリ(國際檢察部文書

Doc 6257

オ千六百二十八号七十五頁) ソ(三基キ即日山本ハ(國
際檢察部文書オ十七二頁) 聯合艦隊
命令ヲ一号ヲ發シ、該計畫ヲ実行セリ。
計畫ニ於ケルY日ヲ而シテ後ニX日ヲ(同ニ三頁)
決定スル爲メノ規定ニ從ヒ十二月八日ヲY日ニ決
定セル命令ガ二号(同ニ二五二頁)ヲ十一月七日ニ
山本ハ發セリ。

六二、同日一九四二年昭和十六年十一月七日 山本ハ旗艦長門
ヨリ機動部隊ニ對シ十島擇捉島、「ヒトカツ單冠」
灣ニ集結十一月二十三日迄ニ物資ノ補給ヲナスベキ旨、
命令ヲ發セリ。(國際檢察部文書オ千六百二十八号七
十七頁)

六三、十一月二十五日 山本ハ機動部隊ニ十一月二十六日行動
ヲ起シ而シテ十二月三日トキメラレタ後官待機
位置ニ其ノ行動ヲ秘匿シツツ進發セヨト命ゼリ
(國際檢察部文書オ千六百二十八号七十八頁)

六四、一九四二年昭和十六年十一月二十六日午前六時機動部
隊ハ真珠灣ヘ、三十哩以上ノ航海ノ途ニ就ケリ。(同七十
八頁)

六五、十二月二日航海ノ途次機動部隊ハ「X日ハ十二月八日」(真
珠灣時間十二月七日)ナルベキ旨ノ聯合艦隊命令ヲ接
受セリ(同七十八頁)

六六、十二月二日 山本提督ハ、旗艦大和ヨリ攻撃開始、
命令ヲ發セリ。

六七、十二月六日より七日ノ夜間(真珠灣時間)機動部隊ハ
全速力(二十六節)ニテ南方ヘ突入セリ。

No. 29

六

八十二月七日早曉(真珠湾時間)オアフ島、真北二百三十

哩ニ至リシ時、午前一時三十分、航空母艦ハオア一次攻撃

隊ノ航空機ヲ発進セシメタリ。オアフ島ノ北方二百哩

時、午前二時四十分ヲ二次攻撃隊ノ航空機ヲ発進

セシメタリ。(國際檢察部文書オア六六二八号、七十一頁)

航空機ハ航空母艦ノ南方ニ集合シ攻撃ノタメ進発

セリ。雷撃機及ビ急降下爆撃機ハ午前七時五十五

分ヨリ八時二十五分マデ攻撃セリ。水平爆撃機ハ八時

四十分ヨリ九時十五分マデ續キタル攻撃ニ於ケル主要

攻撃機ナリ。急降下爆撃機ハ九時十五分ヨリ九時

四十五分マデ攻撃セリ。時ニ襲撃ハ終了セリ

六

九機動部隊ハ航空機ヲ進発セシメタル後全速力ヲ以

テ北西ニ向ケ後退セリ。ソコニ午前十時半ヨリ

午後一時半マデ、間ニ約廿八機ヲ除ク以外ノ飛行

機全部母艦ニ帰還シタリ。依テ本機動部隊ハ

呉向ケ進発シ十二月廿三日同地ニ到着セリ

七

〇、本攻撃部隊ハ米海軍將校並ニ兵員一九九九名ヲ

殺害セリ。其際オア戦艦戦隊司令官タルアイザック・

キヤニル、キッド少將戦死セリ。恐ラク彼ハ最後マデ

指揮ヲ取り居タル旗艦アリゾナノ爆発ニ際シ戦死セル

モノト推定セラレ。アリゾナニ於ケル全損害ハ將校四七

兵員一〇五六(一九四六年/昭和三十一年/七月十五日附海

軍省人々局長証明)合衆玉海兵隊員ノ損

害死者一〇九名(一九四六年/昭和三十一年/五月七日海

兵隊人々部長証明)合衆國陸軍損失死者

二三四名(一九四六年/昭和三十一年/七月八日附陸軍省

Doc 6257

No. 31

損害調査局支部証明) 本攻撃ニ依ル一般市民、
死者五四名(一九四六年昭和二十一年六月七日附布哇太学
内戦争記録局中部太平洋陸軍民情調査隊
特別代理人報告)

七二 飛行機損失合衆五二八八 日本三九
合衆五受ケタル大破並ニ損失 戦闘艦八 軽巡
洋艦三 駆逐艦三 其、他、船舶四 ニエテ
日本側損失潜水艦五

七三 此、如ク不釣合ナル損害ヲ與ヘ得クルハ如何ニ
永野、山本及び日本海軍及政府、協力者が
一九三二年/昭和六年/ヨリ一九四一年/昭和十六年/
ニ至ル間ヨリ其秘密ヲ守リ海軍ノ奇襲計画ト
準備トヲ為シ遂グルコトニ成功シ一九四一年/昭和十六
年/十二月七日ヲ以テ其、見ツタル計画ト準備
ノ絶頂ニ到達セシメタルコトヲ物語ル

七三 真珠湾攻撃ヲ成功セシムルニハ偏ニ秘密、嚴
守ト完全ナル奇襲ニ依ラザル可カラザルコトヲ命
令其ノ他ニ於テ保固シ強力ニ警告告シ遂ニ永
野、山本及び其、協力者ハ真珠湾攻撃ニ於テ
完全ナル秘密ノ嚴守ト完全ナル奇襲ノ敢行ニ成
功セタリ。

七四 予ハ合衆ニ政府、記録中ニ日本政府ハ合衆ニ對シ
戦争行為ヲ開始セントスルコトニ就キテ豫メ明瞭ニ理
由アル警告告ヲ與ヘタルガ如キ文書又ハ通信、アリ
コトヲ今迄発見シ得ズ。
日本外務省ヨリ日本ト合衆國ト、間ニ「戦争状態

Doc 6257

No. 31

損害調査局支部証明) 本攻撃ニ依ル一般市民、
死者五四名(一九四六年昭和二十一年六月七日附布哇太学
内戦争記録局中部太平洋陸軍民情調査隊
特別代理人報告)

七二 飛行機損失合衆五二八八 日本二九
合衆五受ケタル大破並ニ損失 戦闘艦八 軽巡
洋艦三 駆逐艦三 其、他、船舶四 ニエテ
日本側損失潜水艦五

七三 此、如ク不釣り合ナル損害ヲ與ヘ得タルハ如何ニ
永野、山本及び日本海軍及政府、協力者が
一九三二年/昭和六年/ヨリ一九四一年/昭和十六年/
ニ至ル間ヨリ其秘密ヲ守リ海軍ノ奇襲計画ト
準備トヲ為シ遂グルコトニ成功シ一九四二年/昭和十六
年/十二月七日ヲ以テ其、見ツタル計画ト準備
ノ絶頂ニ到達セシメタルコトヲ物語ル

七三 真珠湾攻撃ヲ成功セシムルニハ偏ニ秘密、嚴
守ト完全ナル奇襲ニ依ラサル可カラサルコトヲ命
令其、他ニ於テ操込シ強力ニ警告告シ遂ニ永
野、山本及び其、協力者ハ真珠湾攻撃ニ於テ
完全ナル秘密、嚴守ト完全ナル奇襲ノ敢行ヲ成
功セタリ。

七四 予ハ合衆ニ政府、記録中ニ日本政府が合衆ニ對シ
戦争行為ヲ開始セントスルコトニ就キテ豫メ明瞭ニ理
由アル警告ヲ與ヘタルガ如キ文書又ハ通信、アリシ
コトヲ今迄発見シ得ズ。
日本外務省ヨリ日本ト合衆國ト、間ニ「戦争状態

Doc 6257

No. 32

発生セリ」ト、通出が一九四一年／昭和十六年十二月十日
午前二時三十五分、玉務省ニ到着セリ
即チ日本艦載機カラノ最初ノ魚雷及ビ爆弾が具珠
考ラ見舞フテヨリ正ニ至、時間四十分後、コトナリ